

## 2025平和行動 in 根室

北方領土（択捉島、国後島、色丹島、歯舞群島）の返還！  
日ロ平和条約の締結を！

2025年9月6日（土）～7日（日）、東海3県合同（愛知12名、岐阜5名、三重8名）で「連合2025平和行動 in 根室」に参加しました。初日は、北方四島学習会（Aコース）で、講演と元島民の方の訴えを聴きました。2日目は、納沙布岬・望郷の里公園で、2025 平和ノサップ集会に参加しました。当日は時折小雨が降ってくる雨模様の天気でしたので、北方四島を観ることはできませんでした。全国の構成組織・地方連合会から計653名が参加しました。

### 1. 北方四島学習会

【Aコース】

日時 9月6日（土）13:30～16:30

場所 北海道立北方四島交流センター（二・ホ・ロ）2階「交流ホール」

<講演>

テーマ「海から考える北方領土返還運動」

山田 吉彦 氏（参議院議員、国民民主党所属）

<元島民方の声>

「ふるさと北方四島への想い」

角鹿 泰司 氏（元島民 歯舞群島・勇留島出身）

児玉 <sup>たいこ</sup> 泰子 氏（北方領土返還要求運動連絡協議会事務局長、

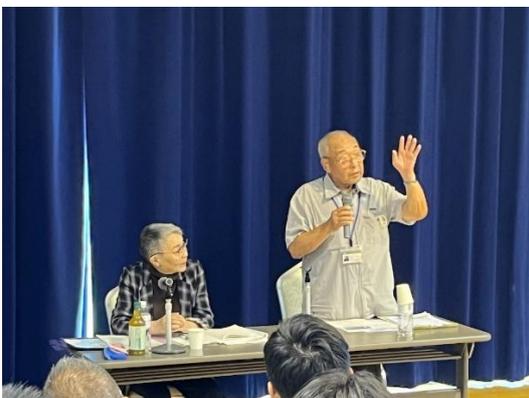
元島民 歯舞群島・志発島出身）

講演では、山田参議院議員から海洋問題と日本の海洋資源に北方四島がどのように関わっているのか、また日ロ関係近年の動向、日米安全保障条約第5条1項についても触れ、日ロ間の漁業協定の説明もしていただきました。尖閣諸島・沖ノ島・竹島についても現在の状況を話され、北方四島に限らず領土問題というのは、海から考えるということが重要なんだと感じました。



元島民の2人からは生活していた当時の話がされましたが、先に話された角鹿泰司（つのかやすじ）さんは、本来色丹島出身の得能宏（とくのう ひろし）さんが話される予定であったが急病で入院され急遽代理での出席となったこと、自分は歯舞群島の勇留島（ゆりとう）出身で小学校3年生の時に終戦を迎え、その翌月に旧ソ連軍の兵士に自分たちの生活を突然奪われたこと、親族の墓参も叶わないことなど、ふるさとへの強い想いを話されました。2人目の児玉泰子さんは、3歳の誕生日に家族12人で送還船に乗って故郷を離れて78年が経っている、今でこそ「元島民」と呼ばれているが、家も船も漁具も無く丸裸。生活の基盤を失い過酷な生活を強いられた人たちは「引き揚げ者」呼ばれていた…と島を出てからの悲惨な生活を赤裸々に語っておられました。

元島民の方々の話は生々しく、自分たちが知らないことがたくさんありました。1947年7月から始まった『送還』は、「島に留まることはすなわちソ連国籍に入らなければならない、再び日本には戻れない」と言われ命令に従うしかなく、1948年10月まで計16回に分けて函館に送還された、ということでした。また、戦前北方領土には、17,291人が定住していたとされており、2025年6月現在の生存者数は4,907人、平均年齢は89.6歳です。



## 2. 2025 平和ノサップ集会

日時 9月7日(日) 11:00~12:00

場所 納沙布岬・望郷の岬公園

### <次第>

1. 主催者挨拶 清水 秀行 (連合事務局長)
2. 地元挨拶 須間 等 (連合北海道会長)
3. 来賓挨拶 坂本 隆哉 氏 (北海道総務部北方領土対策本部長)  
石垣 雅敏 氏 (根室市長)  
山本 茂樹 氏 (独立行政法人北方領土問題対策協会  
理事長)
4. 来賓紹介 児玉 泰子 氏 (北方領土返還要求運動連絡協議会  
事務局長)
5. 元島民の訴え 角鹿 泰司 氏 (元島民、勇留島出身)
6. 特別報告 渡部 達大 (連合島根中部地域協議会雲南地区会議  
議長)
7. 地元国会議員 篠田奈保子 氏 (北海道7区 比例北海道選出)
8. ピースリレー 須間 等 (連合北海道会長)  
仲宗根 哲 (連合沖縄会長)
9. 集会アピール 小田桐丈浩 (全道庁根室総支部)
10. がんばろう三唱 浅野 康敏 (連合北海道釧根地域協議会会長)



集会は、清水事務局長の主催者挨拶、連合北海道会長挨拶、来賓として北海道北方領土対策本部長、根室市長、北方領土問題対策協会理事長、それぞれが挨拶。そして来賓紹介で児玉泰子氏が紹介されました。また、元島民角鹿司氏からの熱い熱い訴え、連合島根中部地協雲南地区会議議長からの特別報告、地元選出篠田奈保子衆議院議員からは国会での取り組みの報告もありました。そして、ピースフラッグが連合北海道から連合沖縄に手渡され、集会アピールを採択し、最後にがんばろう三唱をして集会は終了しました。



### 3. 平和行動 in 根室に参加して

初日の北方四島学習会は、Aコース・Bコース・Cコースの3グループに分かれ、それぞれ内容の濃いものであったと思います。私たち東海のグループはAコースでありましたが、移動中のバスの中で、Cコースで組まれていた「シヨバンニの島」のDVDを鑑賞しました。

1945年太平洋戦争が終わり、日本がポツダム宣言を受諾した直後、ソ連軍が色丹島を占領。島は突然日本からソ連の支配下へと変わり、島の子どもたちとソ連兵の家族（子どもたち）との関わり合い、そして家族との別れ。

子どもたちの視点で描かれた戦後の混乱と民族を超えた『絆』、悲しくも考えさせられる内容でした。このDVDを観てから元島民の方々の話が聞けて、わりと当時の状況が想像しやすかったように思います。国後島が沖縄本島よりも大きいこと、初めて知りました。

2日目の集会は、雨模様の天気で北方四島を望むことはできませんでしたが、全国各地から、連合構成組織、地方連合会、共催団体、後援団体等多くの仲間の皆さんが結集され、連合岐阜からはJP労組2名、自治労2名、事務局1名の5名で参加しました。

今回の平和行動で感じたことは、戦後80年を迎え、元島民の人数も減り、残さ

れた時間は長くないんだということ、1日も早く解決できるよう国に働きかけること、返還運動を継続していくこと、そして絶対に諦めないことが大切だと感じました。そして、参加してみて初めてわかることがたくさんあります。良くも悪くも現在の状況が当たり前にあることではないんだということ、あらためて強く認識させられた気がします。



※文中角田〇〇さんの部分は、急遽 得能 宏さんから変更となったため資料がなく、連合愛知事務局に確認中です。